

『エロ動画消し忘れて死んじゃった』

志井永子

1 4 枚

3 6 5 7 字

篠村は橋の上で死んでしまう。拍子にスマホを河川敷で失くした。スマホに未練のある篠村は橋の上を幽霊となって二年間もさまよっている。その橋には美香という幽霊もいて、「エロ動画を消し忘れたんでしょ？」とからかう。しかし篠村のスマホの中には、恋人に対する大切なメッセージがあった。

○橋・歩道（夕）

覇気なく歩いている七尾美香（17）。

○マンション・玄関中（夕）

ランニングウェアの篠村隆（30）が、
シューズを履き終えて立ち上がる。

篠村「じゃ、ひとつぱしりして来る」

結衣の声「隆、隆」

堂上結衣（27）、慌ただしくやって来てスマホを渡す。

結衣「スマホ、忘れてる」

篠村「サンキュー：：あのさ、結衣。戻った
ら見て欲しい動画があるんだ」

篠村、スマホを掲げる。

結衣「どうせエッチなヤツでしょ」

篠村「違うし！」

結衣「わ、焦ってる」

篠村「焦ってないし！」

結衣「ま、いいや。気をつけてね」

篠村「ん、行って来ます」

ドアを開けて出てゆく篠村。

○橋・歩道（夕）

美香、歩いている。

自撮りをしながら歩いて来る篠村。自

撮りをやめて走り始める。

美香、篠村とすれ違う。

篠村の声「ううっ！」

美香、振り返ると……

篠村、苦しそうに胸を押さえてひざま
ずく。

拍子に、ポケットからスマホが落ちる。

○河川敷（夕）

草むらに落ちる篠村のスマホ。

○橋・歩道（夕）

篠村、うつ伏せに倒れる。

篠村を見つめている美香。

○幹線道路（午前）

○堂上家の車・車内（午前）

助手席に座っている堂上千代（57）

と、運転をしている堂上恭一（60）。

○橋・遠景（午前）

橋の下を見ながら歩いている篠村。

美香、篠村の後ろを歩いている。

○同・歩道（午前）

篠村の後ろを歩いている美香。

美香「邪魔邪魔邪魔。君、邪魔なの」

無視して歩く篠村。橋の終わりに差し

掛かるとピタッと歩みを止め、パント

マイムで壁を触っているような動き。

見えない壁があり、先へは行けない。

クルッと振り返る篠村。橋の下を見な

がら来た道を引き返す。

篠村についてゆく美香。

○同・遠景（午前）

歩いている篠村と美香。

○同・歩道（午前）

橋の終わりに差し掛かる篠村。パント

マイムで壁を触っているような動き。

美香、篠村の背後にやって来る。

美香「何回行ったり来たりしたら分かるかな？ 橋からは出られないの」

篠村「しつこいな、君。君は何なの？」

美香「しつこいのは、君。君が何なの？」

篠村「橋から出たいだけ」

美香「出られないの。幽霊だから」

篠村「幽霊だから出られないっていうのは理由になっけてない。てか俺のこと見えるんだ」

美香「見えてるから話してるんでしょ」

篠村「てことは……君も幽霊じゃん」

美香「君がこの橋から出られないのは未練があるから」

篠村「未練なんてない。俺はここで倒れて病院に運ばれて、キレイさっぱり、アツサリぽっくり」

美香「ガッツリ未練はある」

篠村、ムスツとして来た道を引き返す。

美香、ついてゆく。

美香「未練があるから、橋の上で生き続けているんだよ」

篠村「生き続ける？ 死んでるのに？」

美香「私、知ってるんだ。君の未練」

篠村「だからあ、未練なんてない」

美香「嘘だ。私、君が倒れるトコ見てたもん」

篠村「見てたんだったら心臓マッサージとかしてくればよかったのに」

美香「倒れた拍子に落っことしちゃったんでしょ？ スマホ」

篠村、立ち止まって振り返り、

篠村「エロ動画なんて入れてないし！」

美香「一言もエロ動画なんて言っていないけど」

篠村「ああ、いや、あの……」

篠村、バツが悪そうに黙る。

美香「君の未練、スマホだと思ってたんだけど。エッチな動画なのか」

篠村「それもそうだけど、もっと大切な動画があつて……」

篠村、欄干にしがみつき、下を見る。

美香「もっとエッチな動画があるんだ」

篠村「そうじゃなくてえ……」

美香「（遮り）この橋は私の特等席なの。そんな動画はもう諦めて、未練を消して、成仏しな」

篠村「成仏ねえ。俺は無宗教だよ」

反対車線に車が止まり、堂上と千代が降車する。

篠村「ママさん！ パパさん！」

千代と堂上に駆け寄る篠村。手を握ろうとすると……

篠村の手はスッと通り抜けて、触れない。

篠村「あ……」

美香「だから心臓マッサージできなかつたんだよ」

堂上、見回して、

堂上「これが、隆君が見た最後の景色か」

篠村「最後に見たのは救急車の天井です」

美香「君の声は聞こえてないよ」

堂上「もう二年か」

篠村「二年！？ そんな経ったのか……」

堂上「見つかるといいな、隆君のスマホ」

千代「あれね、とっくに見つかったの」

堂上「何だ、そうだったのか」

篠村「よかったあ、見つかったるう」

美香「エッチな動画、バレちゃったかもよ？」

篠村「それは困る……けど、そんなことより

大事なことがあるんだよ」

千代「でも結衣に渡すかどうか迷ってて」

篠村「結衣に渡してください！」

堂上「渡した方がいいんじゃないか？」

篠村「パパさん！ もっと言って！」

千代「いつまでも隆君の思い出にすがりつい

てたら、結衣が先に進めないから」

篠村「先に進めないって……」

堂上「もう二年、そろそろ立ち直る」

千代「まだ二年。まだまだ立ち直らない」

美香「君は邪魔になってるみたいだね、元恋

人の、もーと恋人の」

美香、ゆっくり歩き始める。

ムスツとする篠村。反対側の歩道で結

衣と歩調を合わせて歩く。

篠村「で？ 君の未練は？」

美香「未練なんてない」

篠村「橋の上をウロウロしてるくせによく言

うよ。よし、君の未練を当ててみる」

美香「クイズにしないで、人の未練を」

志村「ほら、未練あるじゃん」

美香「あ……うるさいな」

篠村「君の未練はズバリ、恋人」

美香「違う」

篠村「お金だ」

美香「違う」

篠村「なら、両親への感謝」

美香「それはちょっとあるけど、違う」

篠村「となると……好きな相手に告白できな

かったとか？」

立ち止まる美香。

篠村「凶星だ」

美香「できるわけないじゃん、告白なんて」

篠村「うわ、意気地なし」

美香「あの人は私の存在すら知らないよ」

美香、振り返って千代を見る。

千代、美香を見つめている。

堂上、千代の顔を覗いて、

堂上「どうした？　おーい？　大丈夫？」

千代「……誰かいたような気がして」

堂上「ちょっとお、怖いこと言わない」

千代「懐かしい感じがしただけ」

美香に歩み寄る篠村。千代を見て、

篠村「告白できなかつた相手って……ママさ

んか」

美香「高校のとき、大昔の話だよ」

篠村「懐かしいって言ってた。君のことも君に好かれてたことも知ってたみたいだね」

美香「一度だけ名前を呼んだことがあるんだ、

千代ちゃんって」

篠村「無視されちゃったのか」

美香「ううん。彼女は笑顔で振り返った」

篠村「告白のチャンスじゃん」

美香「ダメだった。私、逃げちゃって、好き

だって言えなかった……この橋で」

篠村「だからこの橋に未練が……見て」

と千代を指す。

千代、美香を見つめている。

篠村「君のこと見えてるんだよ」

美香「見えてないよ」

篠村「見えてなくても感じてる。今も昔も君を忘れてないし、この先も君を忘れないよ」

美香「それっていいことかな？」

篠村「君にとってはね」

美香「残された人にとっては？」

篠村「残された人にとっては……いいことで

あつて欲しかった」

美香「うん、いいことであつて欲しかった」

篠村「……ママさん、スマホ捨ててください。

結衣の足枷になりたくないんです」

堂上「スマホがあること、結衣に伝えよう」

千代「それは……できない」

篠村「そうです、ダメです」

堂上「結衣が言ってたでしょ。見なきゃいけ

ない動画があるって」

千代「あんなの見せられない」

篠村「見せちゃダメです」

堂上「それが結衣の心残りなんだよ」

千代「分かっている。でも見せられない」

篠村「見せられません」

堂上「スマホを受け取るか受け取らないか動

画を見るか見ないか、結衣の判断に任せよ

う。それが前に進むってことだと思う」

千代「……かも知れないね」

篠村「結衣の足枷になっちゃいます！」

美香「ムリだよ。死んだ人は、生きてる人を

どうすることもできない」

篠村「でも……」

美香「（遮り）何も伝えられないの」

篠村「……もう諦めるしかないのか」

美香「そ。でも、ほんの少しだけど私たちの

気持ちはこの世に残ってる」

篠村、ハツとする。

美香「それでいいじゃん」

篠村「ん、それでいい」

車に乗る千代と堂上。

車が発進する。

篠村と美香、車を追う。

美香「千代ちゃん！好きだったよ！」

篠村「結衣にさよならって伝えてください！」

橋の終わりに差し掛かり、たたずむ篠

村と美香。

美香「泣かない」

篠村「泣いてないし」

美香「……今なら橋から出れそうな気がする」

篠村「ん、いっせーのせで出てみよう」

顔を見合わせて笑う篠村と美香。

篠村と美香「いっせーの……」

同時にジャンプする篠村と美香。

○マンション・外観（昼）

○結衣の家・リビングダイニング（朝）

テーブルの上にボロボロのスマホ。

テーブルに着く学生服の翠（13）。ス

マホを手にする。

やって来て対面に座る千代（71）。

翠「おばあちゃん。この古いスマホ……」

千代「ああ、それ。ママの思い出」

翠「ママの？」

千代「そ、いい思い出なんだってさ」

スマホの電源が入り、動画が流れる。

○スマホ画面

自撮りしているランニングウェアの堂上。

堂上「結衣？ 付き合っただけで今日で三年じゃん？ でき、えーっと、そのお、まあ、今さら面と向かって言うのは恥ずかしいから、動画で申し訳ないけど……結婚しよう！ ……ダメだ、やっぱり直接言わなきゃ」

画面が消える。

○橋・遠景（昼）

誰もいない。

（了）